

風土記の丘の花だより²⁶²

今、そしてこれから見られる植物(2024年11月23日)

前の火曜日は急に冷え込み、ビックリしました。秋の深まりを通り過ぎ、冬になったみたいでした。異常気象、暖冬などこれからもこんなビックリするような天気が続くのでしょうか。花も段々すくなくなり、ここで紹介する花を探すのも苦労するような季節になってきました。



谷山家の庭のヒイラギに白い花が咲いています。数ミリ程度の小さな花なので、よほど気をつけていないと見過ごしてしまいそうです。ヒイラギは木偏に冬と書くくらいですから、寒くなると咲き出します。キンモクセイなどと同じモクセイ科で、かすかにいい香りがします。ヒイラギの葉はトゲトゲというイメージがありますが、大きくなるとそのトゲはなくなります。人間と同じで、歳をとると丸くなるのでしょうか。風土記ではそんな大きな木は見かけませんが、どこかで見かけたら観察してみてください。



資料館の東の坂道の途中に、コウテイダリアが咲いています。見上げるほどの高さですから、長い間眺めていると、首が疲れますね。昔は見かけませんでしたが、今では、庭や畑の隅などによく植えられるようになりました。花はよく見るダリアのようですが、背丈が比べものになりません。別名をキダチダリア(木立ちダリア)というくらいで、茎が木のように硬く、太く、高くなります。中南米が原産の園芸植物です。コウテイは皇帝のことで、imperialis という学名を直訳した和名が付けられています。



他のサザンカは、まだつぼみがいっぱい付いていますが、万葉植物園のサザンカは毎年それより早く咲き始めます。よくツバキと混同されますが、花がそのままボテッと落ち



るのがツバキで、写真のように花びらが一枚ずつヒラヒラと落ちるのがサザンカです。漢字では「山茶花」と書きます。「山茶」はどう読んでもサザンではなく、サンザですよ。いつのまにか、サンザカがサザンカになってしまったのでしょうか。



つる草のヒヨドリジョウゴの実が赤く色づいてきました。これからどんどん赤くなり、きれいになってくることでしょう。これは毒草で、この実をヒヨドリが食べると、毒が回ってフラフラして、酔っ払ったようになるというので「ひよどり上戸」と名付けられました。まさか、ヒヨドリもそんなことはしないでしょうが、動植物の名前というのは面白いですね。

松下